

Live 9 Liteクイックスタートガイド

Ableton Live 9 Liteは、弊社ではサポート対象外となっております。
ご使用方法につきましては、Live 9 Liteのヘルプメニューをご参照
いただきますようお願い致します。

目次

本書の表記.....	1
商標に関して.....	1
インストールするには.....	2
Live 9 Liteをダウンロードする.....	2
Live 9 Liteをインストールする.....	2
オーソライズするには.....	3
Live 9 Liteをオーソライズする.....	3
録音するには.....	4
オーディオ録音.....	7
MIDI録音.....	8

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- パソコンのディスプレイに表示される文字を《OK》のように《 》
で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」とし
て記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載し
ます。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、デー
タが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標に関して

- TASCAM is a trademark of TEAC CORPORATION, registered in the
U.S. and other countries.
- Microsoft, Windows, Windows 7 and Windows 8 are either
registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in
the United States and/or other countries.
- Apple, Macintosh, Mac OS, Mac OS X and Lightning are
trademarks of Apple Inc.
- Ableton and the Ableton logo are trademarks of Ableton AG.
- Other company names, product names and logos in this
document are the trademarks or registered trademarks of their
respective owners.

III≡ Ableton Live Lite

Live 9 Liteクイックスタートガイド

インストールするには

Live 9 Liteは、Abletonのホームページより、ダウンロードで入手して頂く必要があります。常に最新版をお使いいただくため、ダウンロードによる提供を行っています。

Live 9 Liteは、WindowsとMacのどちらのOSでも使用できます。

Live 9 Liteをダウンロードする

以下のURLにアクセスします。

<https://www.ableton.com/ja/products/live-lite/>

ご使用のOSがWindows32ビットの場合、そのまま《LIVE LITEをダウンロード》をクリックすると、ダウンロードが開始されます。

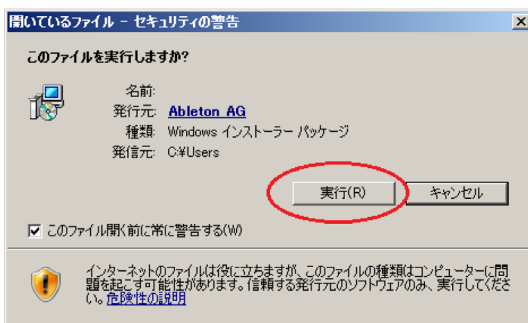
Windows32ビット以外のOSの場合、《その他のダウンロードオプションを表示》をクリックし、表示されたOSの中からご使用のOSをクリックすると、ダウンロードが開始されます。



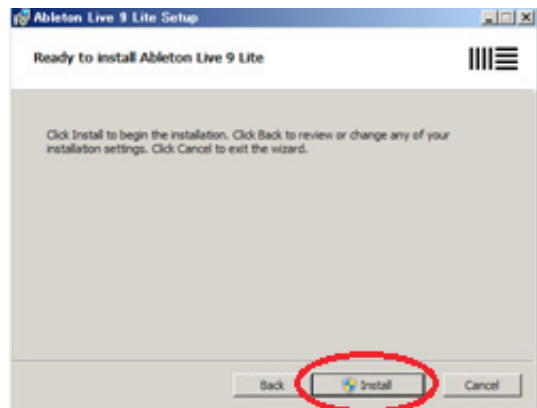
Live 9 Liteをインストールする

Windowsの場合

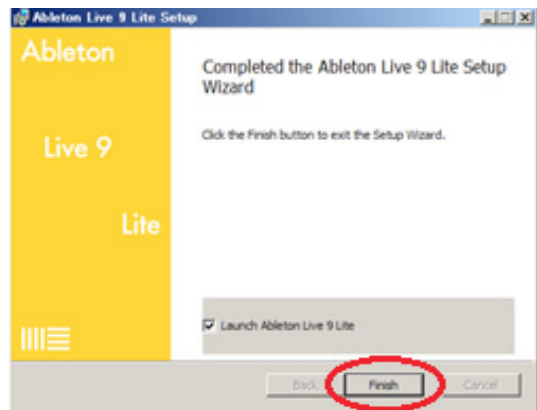
1. ダウンロードしたファイルはZipファイル形式となっています。Zipファイルを解凍し、解凍してできた《Setup.msi》をダブルクリックします。
2. インストーラーが起動しますので、《実行》をクリックします。



3. 画面の指示に従い、《Next》ボタンをクリックして進んでください。
4. 《Install》ボタンをクリックすると、インストールが開始されます。



5. 《Finish》ボタンをクリックするとインストールは完了します。



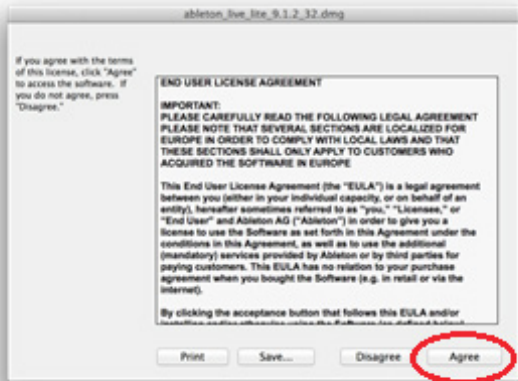
Live 9 Liteクイックスタートガイド

Macの場合

1. ダウンロードした.dmgファイルをダブルクリックします。



2. 《Agree》ボタンをクリックすると自動的にインストーラーが起動されます。



3. 表示されたインストーラー画面において、《Ableton Live Lite》アイコンを《Applications》フォルダへドラッグしてコピーを行います。



4. コピーが終了すると、インストールは完了です。

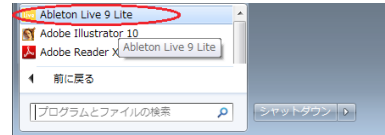
オーソライズするには

Live 9 Liteは、正規ユーザーの方を識別するためにオーソライズをお願いしています。オーソライズを行わないと使用できないようになっていきます。

オーソライズにはインターネット接続が必要です。

Live 9 Liteをオーソライズする

1. Windowsはスタート画面の《すべてのプログラム》からLive 9 Liteを起動します。



Macは《アプリケーション》フォルダ内の《Ableton Live 9 Lite》アイコンをダブルクリックして起動します。



2. 起動するとオーソライズを行う画面が表示されますので、《ableton.comでオーソライズ》をクリックします。abletonのwebページが表示されます。



3. Abletonのアカウントをお持ちの場合は、ログイン名とパスワードを入力してログインして下さい。お持ちでない場合は、情報を入力してアカウントを作成します。

アカウントをお持ちの場合 ログインしてください。

メールアドレス

パスワード

パスワードを再入力してください

LOGIN

初めのお客様 アカウントを作成してください

アカウントでは、LiveとLive Liteに含まれるライブアプリケーションのインストールが完了します。

名前

パスワード

4. メール送信時の宛先です。

〒

国

州

〒

Alabam ニュースレターと特別提供 (不定期) のメール受信を希望する。

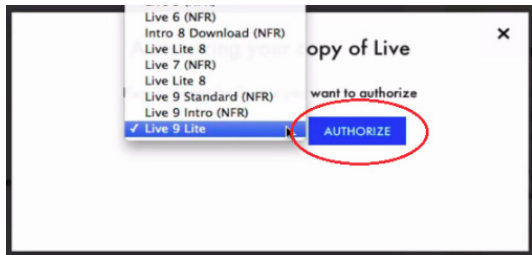
アカウントを作成

Live 9 Liteクイックスタートガイド

4. TASCAMオーディオインターフェース製品に付属のライセンスカードに記載されているシリアルナンバーを入力し、《シリアルを登録》をクリックします。



5. オソライズしたい製品の選択画面が表示されますので、プルダウンメニューから《Live 9 Lite》を選択し、《AUTHORIZE》をクリックします。



メモ

お使いのパソコンのセキュリティ環境によってはオソライズできない場合があります。その場合はセキュリティソフトウェアを停止してお試しください。

メモ

Windowsで、下記のセキュリティ警告が表示された場合は、《いいえ》ボタンをクリックし、その後に表示される画面で《許可》をクリックして下さい。



6. 下記の画面が表示されるとオソライズは完了です。《OK》をクリックしてオソライズを終了します。



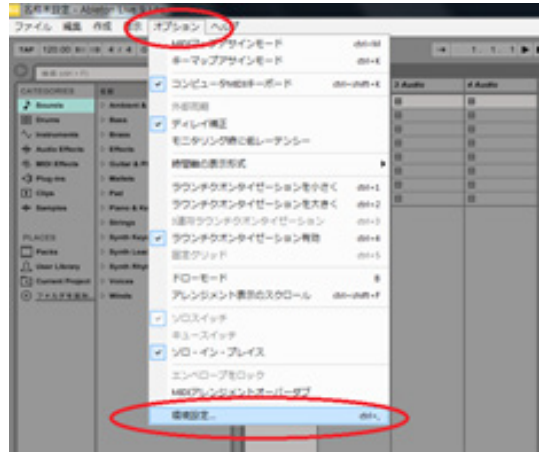
録音するには

Live 9 Liteは、Windows / Macとも、設定内容はほぼ同じです。以下の画面は、Windows 7 でUS-2x2を使用した場合の例です。

下記に録音するまでの簡単な手順を説明しますが、詳細な機能・操作については、《ヘルプ》メニューの《Liveマニュアルを表示する...》で表示されるマニュアルをご覧ください。

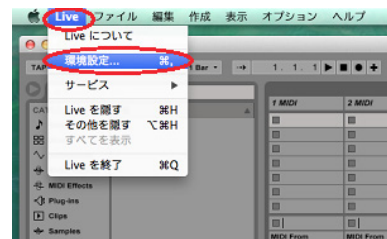
準備（機器を使えるようにする）

1. Live 9 Liteを起動します。プルダウンメニューの《オプション》 → 《環境設定》を選択します。

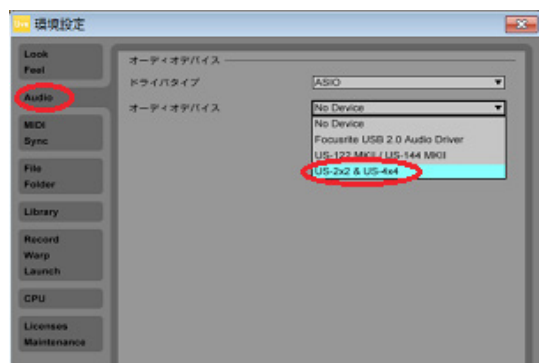


メモ

Macの場合は、《Live》 → 《環境設定》を選択します。



2. 左側で《Audio》を選択し、右側の《オーディオデバイス》のプルダウンメニューからお使いのオーディオインターフェース（この場合は《US-2x2 & US-4x4》）を選択します。



Live 9 Liteクイックスタートガイド

3. 入力および出力の設定を行います。
《入力設定》をクリックし、表示された入力設定画面において、《1(mono) & 2(mono)》および《1/2(stereo)》をクリックして、両方が選択されている状態にし、《OK》ボタンを押します。



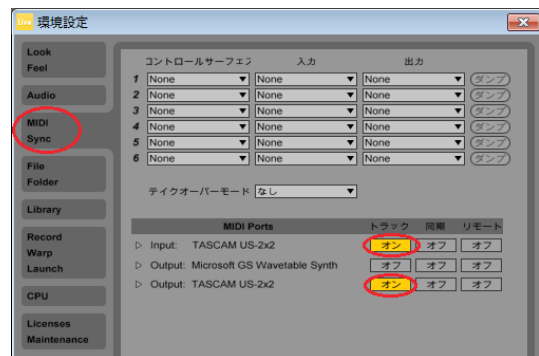
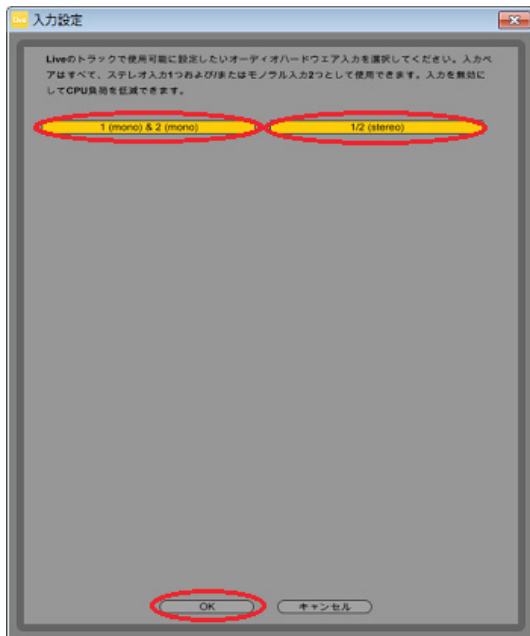
4. サンプリングレートを設定します。プルダウンから使用するサンプリングレートを選択します。



メモ

設定可能なサンプリングレートは、接続されているオーディオインターフェースによって異なります。

5. 次にMIDI入出力を設定します。
環境設定画面の左側で《MIDI/Sync》をクリックすると、右側にMIDIの設定が表示されます。
《MIDI Ports》にお使いのオーディオインターフェース（この場合はUS-2x2）の入力および出力が表示されますので、それぞれの《トラック》項目をクリックし、オン（On）の状態にします。



同様に、《出力設定》をクリックし、表示された出力設定画面において、《1(mono) & 2(mono)》および《1/2(stereo)》をクリックして、両方が選択されている状態にし、《OK》ボタンを押します。

メモ

入力設定および出力設定に表示されるチャンネル数は、お使いのオーディオインターフェースによって異なります。

6. 機器の設定は完了ですので、環境設定画面を閉じて下さい。

次は音声を録音するためのLiveセット（録音する為の作業プロジェクト）を作成します。

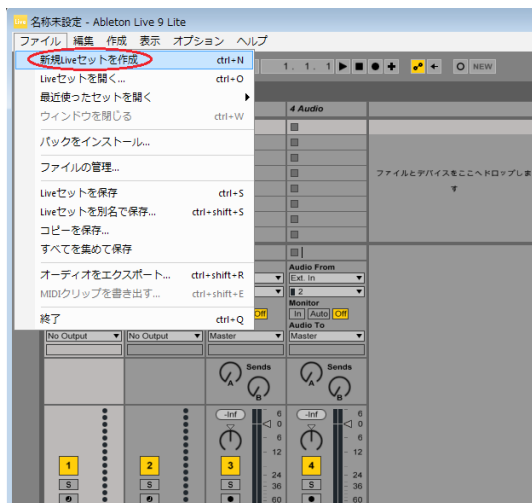
Live 9 Liteは、デフォルトで2つのMIDIトラックおよび2つのオーディオトラックのLiveセットが開きますが、作成する楽曲に合わせたLiveセットを新規に作成することができます。ここでは、4つのオーディオトラックと2つのMIDIトラックで構成されるLiveセットを新規作成します。

ヒント

インターフェースのオーディオ入力を録音するにはオーディオトラックを使用し、MIDI INに接続されたMIDI鍵盤やMIDI音源を使う場合はMIDIトラックを使用します。

Live 9 Liteクイックスタートガイド

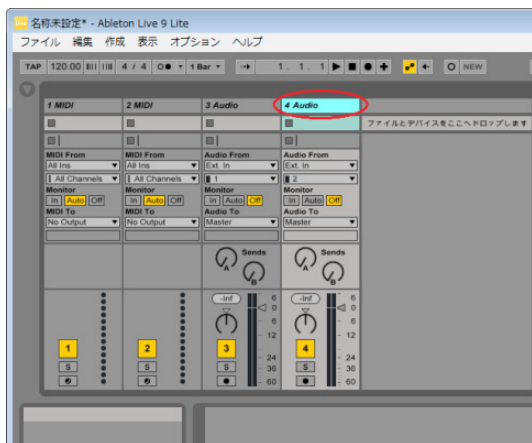
7. 《ファイル》メニューから《新規Liveセットを作成》を選択してください。



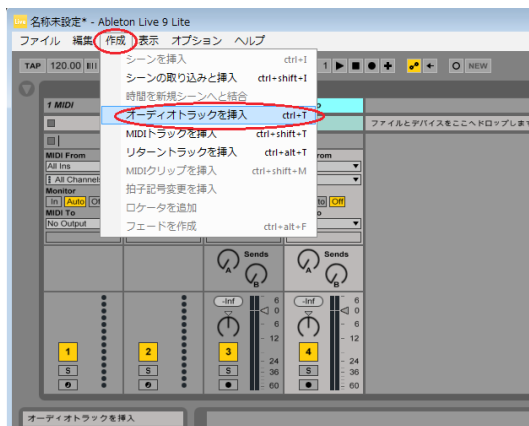
初期状態では2つのMIDIトラック（トラック1-2）と2つのオーディオトラック（トラック3-4）のLiveセットが作られます。



8. トラック5-6にオーディオトラックを追加します。まず、《4 Audio》をクリックし、トラック4が選択されている状態にします。



次に、《作成》メニューから《オーディオトラックを挿入》を選択すると、《5 Audio》トラックが追加されます。



もう一度《オーディオトラックを挿入》を行うと、更に《6 Audio》トラックが追加されます。

ヒント

《作成》メニューから《MIDIトラックを挿入》を選択すると、MIDIトラックを追加できます。

9. 各トラックの入出力ポートアサインを設定します。

トラックには、入力ポートと出力ポートがあります。入力ポートは録音をする信号が入ってくる場所で、出力ポートは録音している音や再生している音を聞く為に信号を出力する場所です。

《1 MIDI》トラックの《MIDI From》のすぐ下にあるプルダウンメニューで、お使いのオーディオインターフェース（この場合はUS-2x2）を選択します。これでUS-2x2のMIDI入力端子に入力されたMIDIコマンドが《1 MIDI》トラックに入力されます。

次に《MIDI To》のすぐ下にあるプルダウンメニューで、US-2x2を選択します。これで《1 MIDI》トラックのMIDIコマンドがUS-2x2のMIDI出力端子から出力されます。

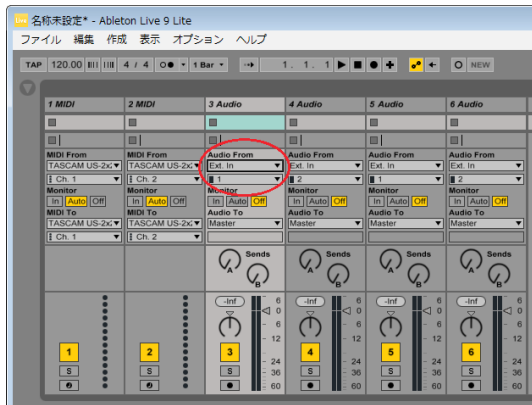


ヒント

入出力ポートの設定部分が表示されていない場合は、《表示》メニューの《入力/出力》にチェックを入れる则表示されます。

Live 9 Liteクイックスタートガイド

10. 《3 Audio》トラックの《Audio From》のすぐ下にあるプルダウンメニューで《Ext. In》を選択します。



メモ

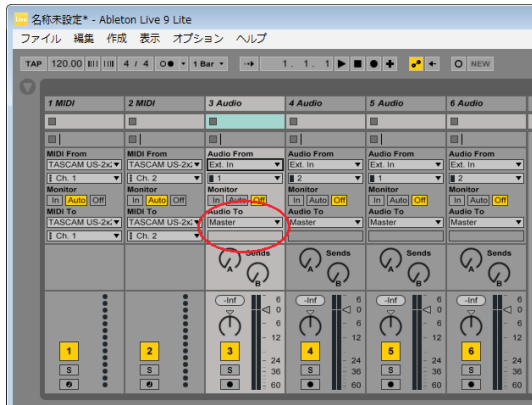
《Ext. In》とは「外部機器の入力」という意味で、この場合は、本章の2.と3.でUS-2x2が設定されていますので、「US-2x2の入力」を意味します。

更に、その下のプルダウンメニューで《1》を選択します。これでUS-2x2の入力1の端子から入力された信号がこのトラックへ入力されます。

ヒント

《2》を選択すると、US-2x2の入力2の端子から入力された信号がこのトラックへ入力されます。

11. 次に、オーディオ出力ポートを設定します。《3 Audio》トラックの《Audio To》のすぐ下にあるプルダウンメニューで《Master》を選択します。



メモ

複数のトラックの音をステレオで聴く為には、複数のトラックの出力音をミックスしてから、オーディオインターフェースへ出力する必要があります。各トラックにおいて、出力ポートに《Master》を選択すると、複数のトラックの出力信号をマスターバスでステレオへミックスすることができます。

ヒント

《Audio To》のすぐ下にあるプルダウンメニューで《Ext. Out》を選択すると、そのトラックの出力信号がマスターバスを通さずに、ダイレクトでUS-2x2へ出力することができます。接続されているオーディオインターフェースが4チャンネル以上の出力を持っている場合、その下のプルダウンメニューで出力先を選択することができます。

12. 同時に他のトラックを使用する場合は、他のトラックにおいて、9-11の設定を行います。

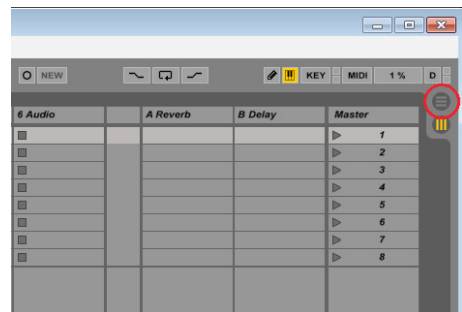
13. マスターバスでミックスされたステレオ信号をUS-2x2へ送る為に《Master》トラックの出力先を設定します。一番右側の《Master》トラックにおいて、《Master Out》のすぐ下のプルダウンで、《1/2》を選択します。



14. これで準備は完了です。いよいよ録音に進みます。

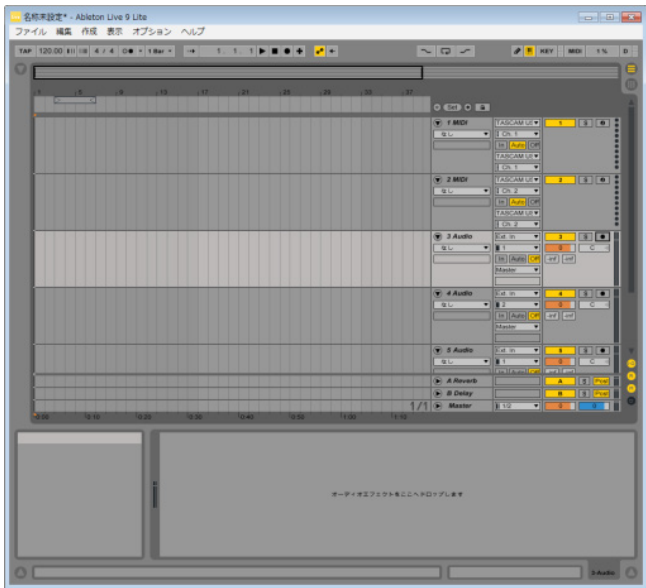
オーディオ録音

1. 録音の状況がわかるようにLive 9 Liteの表示方法を切り替えます。右上の「丸に横棒3本」のマーク(赤丸で示した部分)をクリックします。



するとミキサー画面の表示からタイムライン表示に切り替わります。

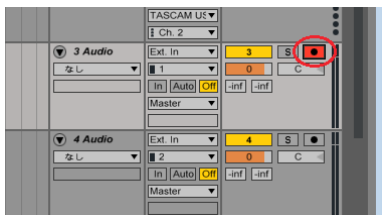
Live 9 Liteクイックスタートガイド



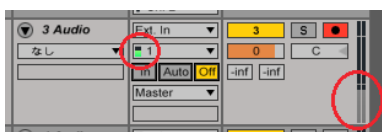
メモ

各トラックの音量バランスを調節するなど、ミキサーの操作を行う場合はミキサー画面が便利ですが、録音を行う場合は、録音の状況が確認できるタイムライン画面表示が便利です。

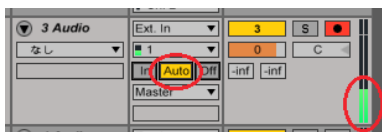
2. 《3 Audio》トラックに録音を行います。《3 Audio》トラックの《アーム》ボタン（黒丸のボタン）をクリックしてオン（赤く点灯）にします。



この状態でUS-2x2の入力1端子に信号を入れると、入力ポートのチャンネル設定の左にあるメーターが緑色に点灯します。これは入力メーターで、このトラックに信号が入力されている事を示します。また、右側にあるメーターはそのトラックの出力メーターで、グレーで点灯しているのは、出力の信号はありますが、実際には出力されていないという表示です。



これは、このトラックのモニター設定がOffとなっているため、このままでは入力している音を聞くことができません。入力されている信号を聞く為には、モニター設定の《Auto》のボタンをクリックして点灯させます。



これでこのトラックの出力メーターが緑色で点灯するようになりました。出力音は、マスターバスで他の信号とミックスされ、その後US-2x2の出力端子から出力されます。

ヒント

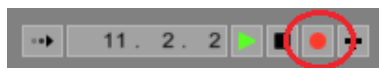
《In》《Auto》《Off》の3種類のボタンは、モニタリング設定ボタンです。設定によって、そのトラックの出力信号が変化します。

《In》 トラックの入力信号がそのまま出力されます。常に入力音を聴きたい時に便利です。

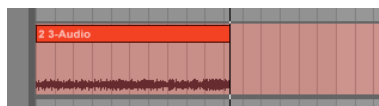
《Auto》 《アーム》ボタンがオンの時はトラックの入力信号がそのまま出力されます。《アーム》ボタンがオフの時はトラックの再生音出力されます。録音する時には入力音が出力され、録音した音を再生するときには再生音が出力されるので通常録音時に便利です。

《Off》 何も出力されません。オーディオインターフェースのダイレクトモニタリング機能を使用する場合に便利です。

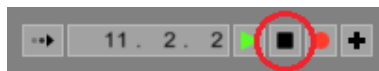
3. 画面上部のトランスポートボタンの《録音》ボタンをクリックして録音と演奏を開始します。



そのトラックに録音している信号の波形が表示されます。



4. 演奏が終了したら《停止》ボタンをクリックします。



5. 異なるトラックに録音する場合に間違えてこのトラックに録音されてしまわない様に、このトラックの《アーム》ボタンをクリックしてオフにすることをお勧めします。

また、《ファイルメニュー》から《Liveセットを保存》を実行する事により、こまめに保存する事をお勧めします。

6. 巻き戻して《再生》ボタンをクリックすると、録音した音を聴くことができます。

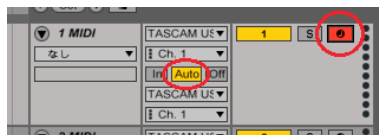
7. 2.から5.の手順を繰り返し、複数のトラックに録音していく事により曲を作成していきます。

MIDI録音

1. 《1 MIDI》トラックにMIDI録音を行います。

このケースでは、Live 9 Liteに内蔵のMIDI音源（ベース）を使用する場合を想定しています。

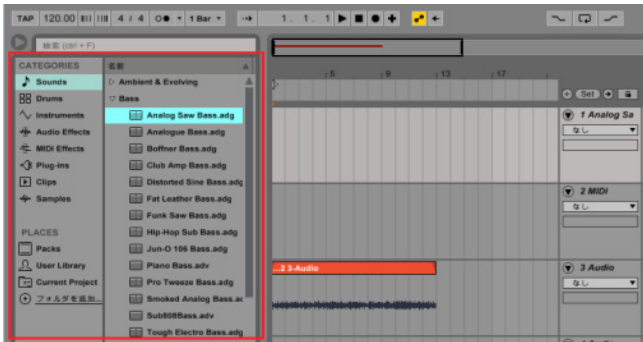
《1 MIDI》トラックの《アーム》ボタンをクリックしてオン（赤く点灯）にします。また、《Auto》ボタンをクリックしてオンにします。



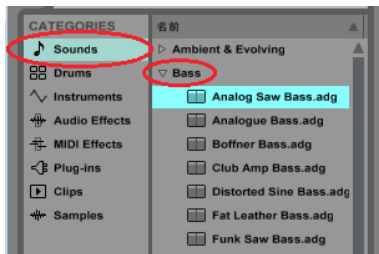
この状態でUS-2x2のMIDI IN端子にMIDI鍵盤やMIDIパッドを接続して演奏を行うと、入力MIDIチャンネルの左にあるメーターが黄色に点灯します。これは入力メーターで、このトラックにMIDI信号が入力されている事を示します。また、右側にあるメーターはそのトラックの出力メーターで、このメーターが黄色に点灯している事は、そのトラックからMIDIコマンドが出力されている事を示します。

Live 9 Liteクイックスタートガイド

- 次にMIDI音源を設定して音源を鳴らしましょう。
画面左上にある三角印のボタンをクリックします。すると、左側にブラウザーが表示されます。



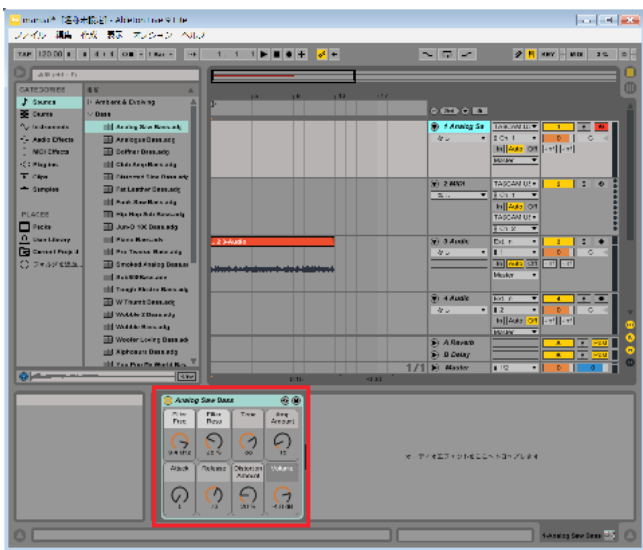
- 左の《CATEGORIES》で《♪ Sounds》を選択し、右側で《Bass》を選択すると、ベース音源のリストが表示されます。



- 今回は、一番上の《Analog Saw Bass.adg》を使います。
《Analog Saw Bass.adg》をダブルクリックして下さい。
するとトラックの名前が《1 Analog Saw Bass.adg》に変わります。また、音源の出力先が《Master》に設定されます。
この状態でMIDI鍵盤やMIDIパッドを叩くと、ベース音を聴くことができます。

ヒント

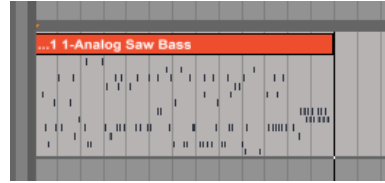
画面下部のクリップビューには、Analog Saw Bassのパラメータが表示されます。お好みによってパラメータを変更して音色を変える事ができます。



- 画面上部のトランスポートボタンの《録音》ボタンをクリックして録音と演奏を開始します。



そのトラックに録音しているMIDI信号が表示されます。



- 演奏が終了したら《停止》ボタンをクリックします。



- 異なるトラックに録音する場合に間違えてこのトラックに録音されてしまわない様に、このトラックの《アーム》ボタンをクリックしてオフにすることをお勧めします。
- 巻き戻して《再生》ボタンをクリックすると、録音されたMIDI信号が再生され、Analog Saw Bassの音を聴くことができます。
- 2.から7.の手順を繰り返し、複数のトラックに録音していく事により曲を作成していきます。

ヒント

Live 9 Liteは、多数のMIDI音源を持っています。

ブラウザーで他の音源を選択する事により、様々な楽器を録音する事ができます。

ヒント

Live 9 LiteのMIDI音源ではなく、外部のMIDI音源機器を使用する場合は、お使いのMIDIインターフェース（この場合はUS-2x2）のMIDI出力端子に音源機器をつなぎます。2でMIDI音源を選択しない事により、トラックに入力されたMIDI信号はそのままトラックから出力されます。このMIDI信号はUS-2x2のMIDI出力端子から音源機器のMIDI入力端子へ出力され、音源機器のオーディオ出力から音声出力されます。

- この場合、音源が外部機器ですので、お使いのMIDIインターフェース（この場合はUS-2x2）からは音源の音は出力されません。音源の出力端子をUS-2x2の入力端子に接続してモニターするか、外部ミキサーを使用してミックスしてモニターします。